

# 第7回 阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会 ニュース

当日の内容を皆様と共有させていただくため、ニュースを毎回発行していきます。

2019年11月20日 発行

2019年9月26日に「第7回阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会」をローズWAMにて開催しました。

今回も商店会で営業されている方や阪急茨木市駅周辺まちづくりに関心のある方、市内で活動されている方など、総勢17名の方に参加いただきました。

今回の学集会では初めに、茨木市内で賑わい創出を目的に、音楽活動をされている木曾様と、芸術活動をされているOne Art Project ディレクターの稲垣様と藤本様に活動内容を紹介いただきました。

続いて、イメージ写真を用いながら『阪急茨木市駅周辺の楽しさや賑わいをイメージしよう』をテーマにワークショップを行いました。

アドバイザーとして近畿大学総合社会学部の久教授にご参加いただきました。

## ○ 賑わい創出の活動紹介:ジャズライブ(木曾様)

生の音楽を身近に感じてもらおうという目的で、茨木市内をはじめ様々な場所で音楽活動を行っています。活動を通じて考えることは、「行きたい」「居たい」と思ってもらえる場所を作ることです。

「行きたい」と思ってもらえる音楽イベントを開催し、日常や生活のリズムの中に当たり前のように音楽があり、そこに「居たい」と思ってもらえる場づくりに、音楽を介して他の商業者や芸術家の方々と協力して取り組んでいきたいと考えています。「まちなかにもっともっと音楽を」という思いで音楽活動を行っています。



## ○ 賑わい創出の活動紹介:アートプロジェクト(稲垣様・藤本様)

アートに気軽に出会い、触れていただくきっかけの場を創出することを目的として、このプロジェクトに取り組んでいます。

JR総持寺駅の自由通路では、様々な作家のアート作品を拡大印刷し、それを壁面に貼って作品を紹介しています。また、実物にも触れていただくため、商店街の空き店舗を活用した展示イベントも実施しました。その他にも、アートウォークツアーやアートマップの作成、小学生とのワークショップなど様々な活動を行っています。

最近では、解体中の市民会館の仮囲いに市民の皆さん方の昨日の出来事をしりとりにしたアートプロジェクト(カコイバ)を実施しています。茨木市内で、「まちにアートが溶け込み、文化として根付く」活動を育てていきたいと思っています。



## ○ 賑わい創出活動について(アドバイザー久教授より)

都市計画家の小林重敬先生は、「①行政によるコントロールの力(規制)、②民間企業によるマーケットの力(市場)、③近隣社会によるコミュニティの力(協働)の3つの方法のうち、今までは①と②が多く利用されてきましたが、これからは③のようにエリアマネジメントの考え方やまちづくり協議会をはじめ、みんなで街を考えて作ったり動かしていくことが重要であると話されています。

これからのまちづくりは、市民との協働により、私たち一人ひとりが街のことを考え、人と繋がることで面白く魅力あるものにしていける時代となっています。

また、Tactical Urbanism という本の中に「Short-term Action for Long-term Change」(長い期間の変化を起こすための短い期間の活動)という言葉があります。木曾さんや稲垣さん・藤本さんの活動は、1日限りの取組みから数か月単位の取組みまであり、たとえ短い期間のものであっても何回も繰り返し、日常化することにより街が変わっていき、みんなで街を楽しくし、居心地の良い空間にする活動です。このような活動をこれからも続けていただきたいと思っています。

そのためには場所とお金が必要ですが、みんなで少しずつ出し合ったら色々な面白いことができるかもしれません。誰かを頼りにするのではなく、みんなで少しずつ力を出し合いながら動かしていけるような試みができたら良いと思います。

阪急茨木市駅西口は再整備で街が動こうとしていますが、空間だけ作っても面白くならないため、「こういう空間があればこういう事ができる。逆にこんなことをやりたいからこういう空間が欲しい。」というような話を行ってきました。活動と空間の関係について、グループワークで色々なアイデアを出していただき、市や私たちが少しでも形にしていければと思っています。

## ○ ワークショップ

【阪急茨木市駅周辺の楽しさや賑わいをイメージしよう】をテーマに、参加者にイメージ写真を見ながら「どこで」「誰が」「どのように活動し過ごしているか」など、駅前や商店街等のまちの様子を具体的にイメージしていただき、意見交換を行いました。

最後は各グループの代表者に発表いただき、参加者の意見を全員で共有しました。

ワークショップで出た主な意見は以下の通りです。

### (賑わい) 生活にうるおいを与える魅力的な店舗



#### 【駅前】

- ・記念日や仕事帰りに遅くまで利用できるカフェや飲食店。

#### 【商店街】

- ・友人や知人と楽しく会食、買い物など生活の中で飲食できるお店。
- ・惣菜など持ち帰りできる手ごろな値段のお店。



#### 【駅前・商店街】

- ・シニア世代がちょっとカッコつけられる、大人がデートできるお洒落なお店。昼前から飲食できるお店。商談後にジャズを聞きながら飲食を楽しめるお店。
- ・神戸にはジャズライブレストランがあり、ゆっくり音楽を聴きながら飲食を楽しめる。ミュージックチャージも安く、多世代の方に利用されている。修学旅行生も訪れ、プロの音楽に触れる機会を得て、大人になって再訪する人もいる。ブランド力があり、お客・ミュージシャン・店舗にとって良い関係性を築けている。

## (賑わい) 日常と非日常に出会える屋内広場



### 【駅前】

- ・天候に関わらず、音楽やダンス、演劇や非日常が味わえるイベントができる。
- ・イベントがないとき、ゆっくり飲食できる憩いの広場。



### 【駅前・商店街】

- ・子供を見ながらゆっくりできる遊具のある広場。
- ・音楽を聴いてリラックス。カフェが楽しめ発表会や販売などができる広場。

## (賑わい) キッチンカー等による賑わいや回遊性の創出



### 【駅前・商店街】

- ・キッチンカーの色々なお店があれば、働いている人も駅前を訪れた人も楽しみながら利用でき、ランチが楽しめ賑わいも生まれる。
- ・年齢に関係なく利用できる。
- ・市役所周辺は飲食店が少なく、需要があるのでは。

## (憩い) 自然を感じられ思い思いに過ごせる屋外広場



### 【駅前】

- ・駅と商店街が1本の通路でつながり、通路沿いに広場がある、そんな空間がいい。
- ・駅前は敷地が限られているので、駅前再整備でビル屋上に芝生広場がほしい。例えば、星空を観る企画をすれば幅広い世代が交流できる。都市に居ながら憩いを感じられる。



### 【駅前・商店街】

- ・広場を利用する各人が季節を感じたり、休憩や読書、イベントに参加。音楽鑑賞や音楽を奏でる、友人との待ち合わせなど、思い思いに広場で過ごす。

## (憩い) 駅前や商店街での魅力ある憩いの空間



### 【駅前】

- ・お茶を飲んだり休憩。
- ・駅前広場でライブ音楽などを聴く場所。



### 【商店街】

- ・学校帰りに買い食いや遊べる場所。・買い物途中で休憩できる場所。
- ・商店がお休みの時に1日楽しみながら趣味の販売ができる場所。
- ・アーティストにより、商店街のシャッターにアートを施すと閉店後の賑わいが生まれる。さらにそのアートが隣のシャッターに連なりドラマ（ストーリー）になると面白い。
- ・まち中で音楽を演奏しながら気軽に楽しめるミニイベント。



### 【駅前・商店街】

- ・買い物などの目的がなくても、お話ししたり休憩できる場所。
- ・就学児童以上の子供たちが交流し、遊んだり安らげる場所。
- ・歩くだけで気分が良くなる。時間や季節を意識できる場所。
- ・商店街を歩いていると疲れる。イスや机のある休憩所があれば利用者は多い。併せて隣でバザーやマルシェができたり、出店料が無料であれば高齢者でも出店できる。





## (子育て) 地域ぐるみの子育て支援



### 【商店街】

- ・子育てサロンで放課後や休日にお手伝いや子供用のイベント。



### 【駅前・商店街】

- ・未就学だけでなく、もう少し幅広い年代が利用できる街中カフェや子供用のイベント。

## (景観) おしゃれな統一感のある街並み



### 【統一感のある街並み】

- ・観光客が訪れ、歩くだけでも楽しくなる街並みを買ひ物しながら散策。

### 【駅前に緑豊かな空間】

- ・憩いや飲食ができる空間。
- ・園のお散歩でいけるような空間。



### 【おしゃれな商店の街並み】

- ・カフェ、雑貨めぐりや服などのショッピング、歩くだけで気分が良くなる街並み。



## ○ まとめ(アドバイザー久教授より)

多様な人が多様な活動を行うとそこが楽しい場所や空間になります。例えば、みんなでワイワイしたい人もいるし、一人でゆったりしたい人もいます。両方ともできる仕掛けを考えることは、空間デザイナーというプロの役割です。場所を作るという意味の「Place making」が、世界中に広がっています。皆さんの想いをどのように実現するか、場所をどう使うかなど使い方の可能性を仕掛けるのは専門家ですが、デザインするには皆さんの意見を聞かないとできません。皆さんの意見を存分に聞かせていただき、それを空間デザインに落とし込んでいくのは、もう少し後で良いのではないかと思います。

今日のゲスト3人に共通していることはクリエイティブな仕事をされていて、常に何ができるかを考え、それを実現させる技術をお持ちなのだと思います。このようにクリエイティブな仕事をしている方だけではなく、市民の皆さんも自分はこのことができる、こうしたいということをして自分でできるとすごい力になると思います。

私はささやかだけどこんなことができる、これなら一緒にできるなどを次回に持ち寄っていただけたら実現にどんどん近づいていくと思います。

次回の学集会は、令和元年 11 月 26 日(火) 19:00~21:00

茨木市市民総合センター(クリエイトセンター) 3階 303号室

連絡先:茨木市 市街地新生課 担当:三浦、参河(みかわ)

TEL :072-620-1821 FAX :072-620-1730 mail:shigaichi@city.ibaraki.lg.jp